

# 琉球大学学術リポジトリ

## 米国管理下の南西諸島状況雑件 沖縄関係 毒ガス 問題 第2次移送(3)

メタデータ	言語: 出版者: 公開日: 2019-02-13 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: - メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/20.500.12000/43784">http://hdl.handle.net/20.500.12000/43784</a>

新聞報道（國公質問）

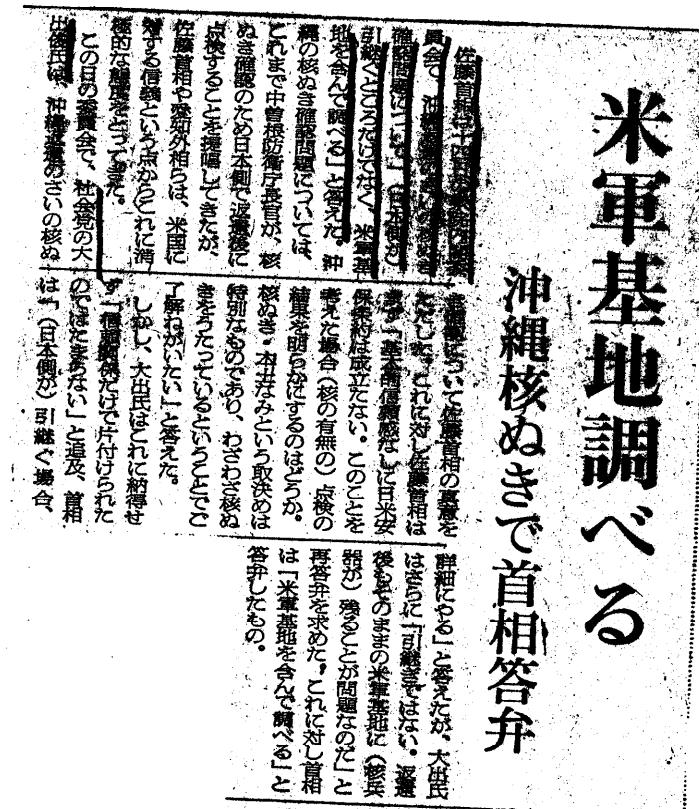
右席

昭和46年5月15日

朝 日

右件経済答弁と並んで  
非常の關係を察せらるゝが遠やかに  
その點をもとめて此の趣旨、附記する。  
木下山林氏 (内緒 256)

5/15 11:30 F6.0



5.15 米大マイヤース特使へ 2次会見開催

1. 議事録をしらべてはつきりからむ。
2. 「今米軍基地の実態をしらべてみる」  
それも含めて調査したい」といつたか  
「Confirm, とはいいまふ。 2 方面で明確  
にならかれた。

(P7)

(五月十四日東方會議事錄より抜粋)

大正後（社會）

前言を取り消したところ、やうなとこつたうが、

返還交渉の場で強調する。二つおへしやつていろ

かけですかう、それはよししゃうじゆうじゆうか。

佐藤總理

返還交渉の場にあ、もつらん現地に出て

す、しておもはるが、と、うそいつひ、ひが、

せ必ず詳細にやつせながら、それにつきまして  
いただきたう、かように因つておつせた。

大出俊

日本側が引き継ぐ場所に核があるとは思えな  
い。つまり、核があるかないかという焦点は、返還  
された米軍の基地はそのまま残る。そこには問題  
がある。……

だから、これは返還交渉の過程で沖縄が日本  
に返るんだから調査をする、そういうものは

あるまい。返還にあたって米軍基地の中に核が  
あるかないかということを調査として、されば  
だけようとおしゃるというのが筋だ。そうでは  
きや演説をお取り消しになつたことになる。  
いかがですか。

佐藤總理

前回お取引頂いた事務所にて、お忙しい中  
してまた、この度は又お越しくなつて、自分たちが  
現実に引き継ぐ範囲、まだつかめるアマツカ  
の基地の規模をどの程度十分理解するべく、  
それで、初めからお越しいただくのがうれしい、  
こうことを含んでのこと、かくいづれもお詫び申す。

某軍少神體から取取扱事意が又兵器を撒きまつたる責にて云が、  
某機車業者完了したが、

答、某政府は、序多件發生後七月二日同防長官

のステートメントにて明るかにしたすうに沖縄から來りて  
有島ガ太の化学兵器を播ふることを宣言、

ソウためて某が主モリカ太機車の賣川家の一同を沖  
縄に派遣いたす旨アハヨのべ、機車手つ工とは同連、

昭和46年5月15日 朝日

昭和46年5月15日 東京

# 大量の化学兵器用 塩素ガス 相模原の米軍保有

公明追及

公明の伊藤助丸氏は、十四日午後の衆院内閣委員会で、在米軍が化兵器の材料である塩素ガスを大量保有している事実を明らかにした。これにたいして中曾根防衛長官は「米軍に無し」と述べた。伊藤氏の説明によると、問題の塩素ガスは神奈川県相模原市の米軍補給所である京かい中根倉庫を納得せず、審議は中止。愛知外相と中曾根長官が「国民的関心事である、調査をもつて調査、報告する」と答弁を述べ、議論を終結した。

陸軍相模総合補給所は、「塩素ガスが大量に保管している」と述べた。ボンベに塩素ガスがはいっていなかった結果、殺菌、消毒用に使用されるものである」と述べた。

伊藤氏は塩素ガス貯蔵地が、ペトナムへの物資補給所である京かい中根倉庫を示して、「塩素ガスは、ジユネーフ認定書の範囲内で保管されている」と述べた。

外相が「認定書の対象として使用

に例示されている塩素ガスの一つ。昨年五月六日の衆院外務委員会で、愛知県の同補給所は、「米軍に無し」と表明されたため、伊藤長官は「米軍に誤解した」と述べた。

中曾根長官は「米軍に誤解した」と述べた。しかし、この誤解は、いわゆる化学・生物兵器ではなく」と突っぱねたため、伊藤長官は「米軍に誤解した」と述べた。

「国民的関心事であり、政府としても慎重に対処せざるを得ない」が適正に行なわれているか、誠意をもつて調査したい」と答えた。

## 外務・防衛庁 が合同調査

米・相模補給

よりの塩素ガス

愛知外相と中曾根防衛長官は、十四日の衆院内閣委員会で、「神奈川県の米軍相模総合補給所にあら塩素ガスの管理状況、危険性の、隠匿などについて、早急に外務省・防衛省の合同調査をしたい」と述べた。この日の委員会で伊藤助丸氏（公明）は、米軍相模補給所に山積みされた「塩素入りボンベの写真」を示しながら、「愛知外相は昨年五月の衆院外務委員会で、ジユネーフ認定書が発行している毒ガスの国内持込みは許さないと答弁した。しかし米軍の同補給所には、認定書が発行していないもののがございました」と塩素が、写真で示すのといた出荷されてくる。かかるの塩素ガスが流れ出で、同補給所から周辺の住宅地に被害がでたことについて、米軍に照会状を提出する所だった。

塗装されている塩素ガス、マスターードガスなどの化学・生物兵器を在日米軍は保有していない」と答弁しており、伊藤氏は補給しようとしている塩素ボンベ内に野積みされている塩素ボンベの写真を示して政府に迫った。

中曾根長官は「米軍に誤解した」と述べた。しかし、この誤解は、いわゆる化学・生物兵器ではなく」と突っぱねたため、伊藤長官は「米軍に誤解した」と述べた。

これに対し愛知外相は化学・生物兵器がわが国に持ち込まれているとほ思わない」としながらも、「国民の関心事であり、政府としても慎重に対処せざるを得ない」と述べ、また中曾根長官も「管理が適正に行なわれているか、誠意をもつて調査したい」と答えた。

されば油縄の毒ガス撤去が遅れる

恐れも出でる事故が起これば大きな被害を出す——などの点をあげ、外相らに警戒を要請した。

これに対し愛知外相は化学・生物兵器がわが国に持ち込まれてい

るとは思わない——としながらも、「国民の関心事であり、政府としても慎重に対処せざるを得ない」と述べ、また中曾根長官も「管理が適正に行なわれているか、誠意をもつて調査したい」と答えた。

16 5.29

毎日 (朝刊)

记事 每日 00

46. 5.

琉球行記(下刊)

自衛隊くるな

上陸に對処立て看<sup>な</sup>どで鬪爭強化

原水勲は、日本を守るために、自らの命を投げてゐる。原水勲には精神的に、かつて鷹頭が体的で失意の中を乗り越えていくことにしてゐる。またある月をメドに進むれでいる毎日努力で、スラム開拓について、「最初の前に、手作りのため、ひんはんに並んでいたる日曜日の裏面、宣傳にしない行政の撤去対策には、今まで反対だとして、行政が第三次施設大統合の既定方針を固執すれば、東方阻止も難解ない強力な手段を取った。「輸送船は

いやだ、自衛隊は國側に反対しようの<sup>(1)</sup>のダメカ二千枚、極東を對<sup>(2)</sup>の二千枚入りの軍械を自衛隊に預けた。日韓通商りや軍事所に歸りめどらずはが、警戒手備隊の船頭かはれに昇昇放の軍隊に被備をとらしめた據るべき前段の軍事と度娘、その広報活動の方針を詳細に明らかにした報道資料の作成を進めている。これを各加盟社に配り、白鶴隊の活躍をPRしていく。  
一方、憲法の移譯については、行政が第一次改定のさい掲げたした田村三郎東大教授の憲法調査團の調査結果が無視していることに不満を述べている。

七月から二ヶ月で  
毒ガスの完全散去

日側と折衝へ

## 毒ガスの完全撤去

神経の病ガスは七月十日から九月十日までの大半間に完全撤去される見通しが強まってきた。これは琉球政府の対策が確実に持つて上達していた所政府の大功勞。海ガス撤去後は公演會が三千八百場を見て叫びかにしたもので、今後この輸送日程を正式に常例に申入れるとともに、なお毒ガス輸送に反対しているルート沿の住民の懼れを弱める。る。

撤去の日程は七月廿日十九  
日までは学校が午前中の算術授業  
なので午後に行なう。七月三十日  
人月三十日までは夏休みなので  
午前、午後とも行なう。八月一  
日—十日までの占同様に午後に行  
なう——となっている。

沖縄に米軍が貯蔵している毒ガ  
ス(液体で砲弾、爆弾、ロケット  
弾、一大ボンベにつめてある)は  
公称二万三千ヶ。米軍は一月十三  
日、このうち85%を「島に残る  
毒性の弱いマスター・ガス百五  
キロを撤去した。残存ガスには